

2016.4  
DOBOKU

# 新入社員への手紙

## 分からない事は聞け。それが成長の近道

毎年4月になると「今年も新入社員の季節か。」と、新入社員当時は思い出します。九州出身の私は憧れの東京での同期入社仲間との新入社員研修は刺激的で、素晴らしい思い出となっています。

大学卒業後、22歳で入社し現場一筋25年間の会社人生でしたが、今思うことを皆さんにお話ししたいと思います。入社当時は現場の事は何もわからず、現場監督の仕事は年配の職人さんたちと一緒に仕事をすることが不安でした。当時の所長のアドバイスは「分からないことがあれば、何でも聞け。誰にでも聞け。今聞かないと、数年後は知っていて当たり前前の立場になるから余計に聞けなくなるぞ。」でした。私は、先輩社員や作業員の人たちとの会話はスムーズに出来たので、分からない事は何でも聞いて自分の知識にしました。

当時このような事は考えていませんでしたが、例えばAさんは『分からない事があるけど、何となく業務完了』、Bさんは『分からないことは聞き、仕事内容を理解した上で業務完了』。仕事はどちらも無事完了したかもしれませんが、同じように10年間経験を積んできた土木技術者を比較した場合、AさんとBさんの時間的な経験は同じですが、仕事に対して当事者意識を持って取り組んできたBさんの仕事の質は、Aさんとは全然違います。「経験値＝時間」ではなく、「経験値＝時間×質」だと思っています。Aさんのように若い頃から「言われたことをそのままこなしてきた人。」と、Bさんのように「分からないことはその場で解決し、自分なりに考え、主体的に取り組んできた人。」では、経験値や知識などすべてにおいて全然違ってくると思います。

昔から土木工事は失敗の繰り返しだったのではないかと思います。土木工事は土質・地下水・気象などの自然の中での仕事です。自分が失敗した経験で、Aさんのように「指示されたとおりにやって、失敗した。」と、Bさんのように「自分で考えて計画したけど、失敗した。」両者が経験した

経験値は全く違います。Bさんは、失敗した要因を理解しているため、次は絶対に失敗しないように計画し現場を管理するはずですが、私も様々な失敗（事故・トラブルなど）をしてきましたが、同じ失敗は絶対しない計画や施工管理をする自信があります。

新入社員の皆さんに期待することは、会社の先輩たちが指示することに対して、「はい、分かりました。」と、そのまま指示に従うのではなく、疑問に思ったことは「なぜそんな計画なのか？」「なぜそこまでやる必要があるのか？」と考え、分からなければ質問し、計画内容を理解した上で現場に反映出来れば、質の高い経験値と成功が得られると思います。

ぐだぐだと難しい話をしてきましたが、君たち新入社員はもう学生ではなく、会社から給料をもらう社会人です。社会人は会社に貢献しなければなりません。Bさんのように自主性と当事者意識を持って日常業務にあたり経験を積むことで、より高い経験値が得られ、やりがいや責任感も感じられます。そのような姿勢で業務を続けられれば、責任ある立場を与えられ信頼される立場で仕事ができ、どんどん楽しくなります。

最後に新入社員の皆さんにお伝えします。ゼネコンの新入社員の仕事は甘くはありません。日々プレッシャーの連続だと思っています。しかし、ものづくりの最前線で働ける職業なので、完成時の達成感を是非味わってください。一度きりの人生、思う存分「地図に残る物づくり」にチャレンジしてみてください。

大成建設株式会社

東京支店土木部

小田急下北沢作業所

統括所長 大石 憲寛





# 3年後の皆さんの活躍が楽しみです!

新入社員の皆さん、ありがとう、建設業を選んでくれて。2016年入社の方は金の卵、たくさんの方がいましたからね。その中から建設業に舵を切った心意気を歓迎します。

建設業は、我が国の基幹産業として経済・社会の発展を支えています。そして防災・減災対策や急速に進行する社会インフラの老朽化への対策など「地域の守り手」として役割を担っているのです。必要とされる建設業という仕事に私は大きな誇りを持って働いています。

しかし、私には技術者としての功績は一つもありません。生活に必要な道路や上下水道、電柱の地中化のための共同溝等のインフラ整備工事だけが私の実績です。

でも、土木技術者としてお伝えしたいことはあります。

入社したのは39歳の時。土木の知識や経験があったわけでもなく、総務経理の担当として採用されました。入社前は、公務員や金融業や旅行業などいろいろな仕事を経験してきましたが、普通の都立高校を卒業して何の資格も持っていなかった私は、この転職に苦労しました。だから、このままじゃダメだとチャレンジを開始。まずは簿記学校に夜間通学して建設経理2級に合格。時間の管理が上手になり、ついでに夜間の大学でマネジメントを学びました。経営審査で会社に有利になる1級建設経理と1級土木施工管理技士を取得、どちらも1発合格とはいきませんでしたけれどね。そして監理技術者になり、現場責任者もやっちゃいます。今は会社の取締役役に就任して給料をいっぱいもらっています。すごい!と言われてたりもしますが、その時々めぐり合わせで「ちょっとやってみようか」「うまく行ってラッキー」とやってきただけ。女だって、いえ、おばちゃんだってできるんです。

若い皆さんにはもっとチャンスも可能性もあります。やるかやらないか迷ったら、まずやってみ

て。失敗なんてありません。ひとつやってダメだったら、やり方を変えて次のことにチャレンジすればいい。目標に向かって経験することに意味があるのだから。

現場仕事は、沢山の人がかかわります。これが楽しい、さらに私を成長させてくれます。工事の内容を地域の町会長さんに説明する仕事は私の役目。南青山や六本木の町会長さんはお米屋さんや靴屋さんといった店主さんでした。大都会だから人と人とのつながりが薄いかと思いきや、餅つきやお祭りがあつたり、噂話をしたり結構人情深いです。また、外国人労働者と仕事をすることもあります。こちらから朝good morningと挨拶してみても、片言の英語で大丈夫、safety firstと声をかけると、相手から片言の日本語が返ってくる。すると現場がうまく進みます。コミュニケーションは自分から発信して!これができると、できないでは将来に大きな差が表れますよ。どのポジションでも共通して必要なことです。

最後に、技術者を目指してはいないけれど建設業に入職した皆さん、特に女性の皆さん、事務系の仕事でも現場のことがわかるようになると興味が湧いて仕事をもっと楽しくなるはずです。女性がとても少ない業界ですが、女性でもできる仕事の幅は意外と広いんです。まずは3年がんばって!

無理してやる気を上げるよりも、やる気を下げないことですよ。

そうすれば、建設業を選んで良かったと思える、いいめぐり合わせときっと出会えるでしょう。3年後の皆さんの活躍を楽しみにしています。

港シビル株式会社

取締役

玉城 恵理





# 現場で働く人達から生の技術を学んで欲しい

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。皆様方におかれましては、不安と期待で胸がはちきれんばかりと推察致しますが、ようやく人生のスタート地点に立ったばかりです。自分のやりたいことが本当にこの会社に合うのか、人間関係はうまくやれるのか、考えればきりがないことがたくさんあるかと思えます。

ただ言える事は会社とはこれから40年近く従事するものですから、仕事を楽しんでください。自分がする仕事に対して常に自信と誇りを持って取り組んでいてもらいたいと思います。私は入社して30年近く経とうとしていますが、新入社員当時を振り返りまして皆さんに経験をお聞かせしたいと思います。

私が入社したのは昭和62年で就職状況はというと、バブル前であまり状況は良くありませんでした。さして考えもせず当時の日本舗道株式会社に入社し、いきなり福島県いわき市にある作業所に配属され、毎日地元の道路工事の測量や工事写真撮影等を先輩社員に教わりながら過ごしておりました。道路舗装工事の場合、概して工期が短く、長くても1ヶ月位で、あまり達成感を感じるといったことはありませんでした。3ヶ月程経ち慣れてくると、マンネリを感じて仕事に面白さを感じなくなったことを今でも記憶しております。大学で学んだこと研究したことが現場では全く生かされていないことに違和感を強く感じていた頃でした。さらに作業所は年輩の先輩社員が多く、若い人は自分以外おらず、日曜日などは一人で車に乗って遊んでいることが多かったように思います。先輩社員と一緒に酒を飲んで仕事に対するグチを言っていました。

そんな中、その当時はいわき市まで常磐自動車道が延伸する工事の真っ只中で、いわきICから平市内に抜ける国道49号線のバイパス新設工事を建設省から受注しました。先輩社員が現場代理人で、私は現場施工管理全般を任せられ、施工計画書の作成や道路のセンター測量など持前の数学力

を発揮できる機会を与えられ、喜んでカーブやバーチカル、座標の計算や施工丁張り掛けなどをこなしていました。この現場の舗装は今では少なくなかったコンクリート舗装を採用していました。スランプ2.5の碎石のような生コンをダンプトラックで運んできてアスペースの上に降ろし、鋼製型枠に設置されたレールの上に並ぶコンクリート打設機械4台を初めて見た時は圧巻でした。日々120m程のコンクリート舗装版が打ち上がっていくのを見てみると、物を作っている実感が湧いてきました。作業員達と力を合わせて行ったコンクリート打設完了の時は感無量でした。

建設業の場合、全てがオーダーメイドなので、皆さん方一人の力では何も出来ません。現場に従事する人たちが、各役割をきちんと全うし、さらにお互いに協力してひとつの目的に向けて力を合わせていくことが大切です。その為には、作業員の方や運転手、オペレーターなど、時事刻々と状況が変化していく中で、常にコミュニケーションを密にとっていき、トラブルや状況の変化に対しその場で素早く解決方法を見出し実行していくことが、我々現場を任された者の職務です。

皆さんは入社後、様々な現場に配属されその職責を担っていくことと思いますが、常に高い参画意識とポジティブなモチベーションを持って、先輩社員や協力業者職長、作業員とコミュニケーションを取りながら生の現場の技術を積極的に吸収し勉強してください。柔軟かつ強い決断力を持つリーダーシップに満ちた技術者に育っていただけるように祈念しております。

株式会社NIPPO

関東第一支店  
東京統括事業所

所長 村田 和之

